



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 20 年 (2008)

天皇陛下御即位 20 年奉祝

平成 20 年 春の大祭号【81 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

今こそ日本の甦りを……………	2 頁
春の大祭案内……………	3 頁
杜の話題……………	5 頁
大宮の杜 春から夏へ……………	8 頁
どんぐり通信……………	10 頁
初宮詣芳名……………	11 頁
春の大祭社頭風景……………	12 頁



こどもの祭 第30回記念稚児行列【五月三日】



特に戦後の学校教育では、近現代史を意図的

平成の御代と成って早くも二十年。神社本庁や日本会議を中心に天皇陛下御即位二十年を奉祝して、今年から来年に掛けて一万年に亘り、全国各地で奉祝の記念行事が行われます。当宮でも向う二年間、奉祝の諸行事を執り行うことに致しました。又、当宮では先の御即位十年を奉祝して華麗な平安朝の宮中行事乞巧奠飾りと菊の被綿飾りを再現し展示させて頂いてから十回目を迎え、このところすっかり定着させて頂いております。これ等も奉祝行事としてさらに継続発展させて頂きたく思っております。さて、念願の昭和天皇のご誕生日の四月二十九日（昭和時代の天長祭）が昨年より「昭和の日」と改称され、今年二回目の昭和祭を迎えようとしております。昭和は足かけ六十四年に及ぶ永い時代でありましたが、日本が未曾有の大戦を経験し、敗戦から占領下を経て、驚異的と云われる復興と経済成長を成し遂げたのも「昭和」と云う時代でありました。謂ゆる昭和の激動の時代を国民の象徴として一身に担われ、香淳皇后様と共に国民と苦楽をともにされたのが昭和天皇様でありました。私もは、天皇様の世界の平和と国民の安寧を祈られ、たえず国民を勇気づけて下さいました愛民の御聖徳に感謝し、敬愛の心を以ていついまでも景仰追慕申し上げ、子々孫々に語り伝えていかねばなりません。しかし乍ら平成になってすでに二十年。この様な激動の時代を身を以て体験された人々も徐々に少なくなり、だんだんと記憶も薄れつつあることも事実であります。また、この昭和と云う時代を全く知らない若者も増えてきております。

今こそ日本の甦りを

昭和天皇の祈りに応えるとき

室司 鎌日 紀彦

に教えない歴史教育が行われ、戦前を軍国主義、又は暗黒の時代として一方的に押しつけの歴史観を浸透させました。又この様な偏向教育に基づく戦後体制は日本の歴史・倫理道徳や伝統の精神文化をも全て否定し続けたのでありました。これ等の事が長い間に自虐史観を生み、自分の国の歴史に対する愛着や誇りも失わせる様な結果になってしまいました。今や経済大国に成ったにも拘わらず、国民や国益も考慮せず、政党色丸出しの自己中心的な渾沌たる政界、自信喪失の様な外交姿勢、各業界の偽装行為などが当り前の様な今日の混沌の風潮は、日本人がかつて持っていた何事に対しても毅然として対応していた精神的支柱を見失ってしまったとしか言い様がありません。

戦後六十年余りに亘って失ってしまった失地回復には永い年月が必要と思われませんが、教育基本法も改正された事でありますから一日も早い教育の再生を願わずにはおられません。この程、宮中三殿（賢所・皇霊殿・神殿）が四力年計画で耐震補強工事や銅板屋根の葺き替えなどの改修工事が美事に竣功して、仮殿より奉遷の儀が執り行われました。実に八十年振りの事であります。昭和時代の先帝は、この場所に於いて戦前戦後を通じて変わりになく、常に国民の安寧を祈られ、宮中祭祀を大切に守られ、ご親祭遊ばされたと漏れ承っております。そのご親祭の御心の通う大御心に依って、国民の生命と財産を守るべく下された終戦のご聖断。命乞いにきたとばかり思っていたマッカー

サー元帥との会見で「全責任は全て自分にある」と国民を救いたいとの一途で無私なる大御心が敵将をして感動させたと云われております。神々にたえず祈られ、神々とご一体であると感じさせて頂ける様な自然体の大御心が拝することの出来る尊い天皇様のご存在は私達日本人の誇りでもございます。又、昭和二十一年元旦に発せられた「新日本建設に関する詔書」は、マスコミの造語で「人間宣言」と云われておりますが、冒頭には明治天皇の五箇条の御誓文が述べられ、日本の再生・戦後の立ち直りの基本には、この五箇条の精神があることを忘れない様にとの大御心が拝察されるのであります。今年、明治天皇が明治の近代国家の樹立に当たり五箇条を国として、天神地祇にお誓いになる祭儀が執り行われてより百四十年と云う節目の年でもあるのです。昭和天皇様が新日本の蘇りにと五箇条の御誓文の精神に立ち返り、戦後の復興を成し遂げる様にごお示し下さった大御心に思いを致し、今また、日本伝統の精神的支柱をしっかりと確立し、現下の混沌の世相から一日も早い甦りをはかり、昭和天皇様の祈りに応える縁にしたいものであります。

昭和の歴史をわだかまりなく、素直な心で見つめ直し、将来に向って国民が自信と誇りを取り戻し、日本人としてのアイデンティティーをしっかりと身につけて行かねばなりません。今年の春の大祭を前に二回目の昭和祭を斎行させて頂くに当たり、昭和天皇の大御心を改めて拝察し、国民の安寧を常に祈って下さっている皇室を中心とする素晴らしい国柄の日本再生への誓いも新たに致しているところでございます。燃え出する若葉の好季節と共に春の大祭（今年よりわかば祭り）と改称）が巡って参りました。今年も期間中多くのご参詣の方々をお迎えして、賑々しく奉祝行事と厳肅な祭典をご奉仕させて頂き、ご祭神の广大無辺なご神恩に報恩感謝の誠を捧げて参りたいと願っております。

天皇陛下御即位二十年奉祝
春の大祭(わかば祭り)
 親世流大宮八幡宮の社 薪能
 裏千家大宗匠奉仕 献茶式

風薫る若葉青葉の新緑の好季節が巡ってまいりました。当宮では、今年の天皇陛下御即位二十年を奉祝して、5月3日より5日までの間、春の大祭(わかば祭り)を斎行致します。(本年より『春の大祭(わかば祭り)』と改称致しました。)

また、「昭和の日」の4月29日には午前10時より昭和天皇のご懿徳をお称え申し上げ昭和祭が厳かに斎行されます。亦、早朝より当宮弓道場振武殿では、春の弓道奉納射会が開催され、夕刻までの射貫く音が鳴り響きます。

春の大祭期間中は、5日の春の大祭**当日祭(尚武祭)**を中心に、3日には春の大祭**第一日ノ儀**こどもの祭(稚児健康祈願祭)に続き、今回で第30回を迎える**稚児行列**に



こども太鼓山車の奉曳

こども御神輿の渡御が加わります。4日には春の大祭**第二日ノ儀**と**植樹祭**などの祭典が斎行されます。また、3日より5日まで燃え出する若葉とつつじの花咲く表参道では**大宮八幡植木市・盆栽展**や露店商が立ち並び、ご社殿前や神楽殿では古武道の演武や和太鼓の奉納演奏、菩提樹下での**野点茶会**などの神賑行事が終日賑々しく奉納され、期間中は多勢の参詣の方々でご社頭が賑わいます。



大宮八幡植木市

春の大祭祭典と奉納神賑行事

祭 事
 昭和祭 4月29日

朔旦祭並びに躰躰育木祭 5月1日

春の大祭第一日ノ儀 5月3日

こどもの祭(稚児健康祈願祭) 5月3日

第30回記念**稚児行列** 5月3日

こども御神輿の渡御 5月3日

春の大祭**第二日ノ儀** 5月4日

植樹祭(苗木授与先着○○名) 5月4日

春の大祭**当日祭(尚武祭)** 5月5日

春の大祭終了奉納祭(真会)の儀 5月5日

神賑行事

春の弓道奉納射会 4月29日

古武道奉納演武 5月3日

第8回**若葉inおみや** 5月4日

第8回**若葉inおみや** 5月4日

杉並太鼓奉納演奏 5月4日

野点茶会(裏千家) 5月5日

方南エイサー踊り奉納 5月5日

雅太鼓奉納演奏 5月5日

奉納献燈提灯 4月29日~5月25日

園児画展 4月29日~5月25日

みどりの会即売 4月29日~5月5日

スカウトバザー 5月3日

大宮八幡植木市 5月3日~5日

盆栽展示会・即売会 5月3日~5日

昭和祭齋行

4月29日(昭和の日)の当日午前10時より昭和天皇のご聖徳をお讃え申し上げ、昭和祭が厳かに齋行されます。



宮司以下参進

第五回大宮八幡宮の杜薪能 5月17日

第九回裏千家献茶式 5月24日

毎月1日 朔旦祭 (どなたでもご自由に) 毎月15日 月次祭 (ご参列出来ます)

毎月最終の土曜日又は日曜日 大宮八幡宮フリーマーケット 杉能会ハザー

毎月・お朔日参りを

致しましょう

植樹祭(献木式)

私達の暮らしは自然と共にあり、緑は私達の生活に潤いを与えてくれています。今年『手をつなごう森と水とわたしたち』をテーマに第59回全国植樹祭が秋田県で行われます。杉並区でも、この大宮地区一帯を『緑の保全を目指す地区』として緑化推進の目標を立てています。「大宮八幡宮みどりの会(五本木徳治会長)」では、武蔵野の面影を今に留めている当宮の鎮守の杜を、神々の鎮まる「緑の杜」に相応しく守り育てようと献木運動を進めております。昨年度より春の大祭2日目の「みどりの日」の4日午後2時より、「植樹祭(献木式)」が当宮みどりの会主催により執り行われます。

苗木授与と献木のお願

祭典に引き続き、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として、ご参列の方々先着200名様に苗木をお頒け致します。



また、ご社頭では、皆様方よりの献木のご協賛を受け賜っております。

献木初穂料 一口二、〇〇〇円

※年中を通じて承っております

第五回大宮八幡宮の杜薪能

第五回大宮八幡宮の杜薪能の奉納公演が、5月17日(土)の夕刻午後6時より境内特設舞台にて「杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)」主催により開催されます。



当日は、先ず能舞台上で、和琴の調べにのせ、古式に則り火鑽神事が齋行され、そのご神火によつて「火入れ式」が行われます。併せて舞台の縁に並べられた竹燈にも火が灯され、ライトアップされた新緑の森の幻想的な雰囲気の中、毎年元旦に神能「翁」を奉納されている能楽師野村四郎氏率いる観世流の演者らにより、能「羽衣」・狂言「口真似」・能「鶺鴒」が演じられます。



なお、入場には陪観券が必要となりますので、お早めにお求め下さい。

第九回裏千家献茶式

平成11年5月15日に「天皇陛下御即位十年」を奉祝し、茶道裏千家今日庵(故擔泉齋伊住宗見宗匠)のご奉仕で、杉並区内では初めて献茶式が執り行われてより、今年で9回を数えます。

5月24日(土)、午前10時より第九回裏千家献茶式が茶道裏千家今日庵 鵬雲斎千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕のもと、昨年より始められた新たな立礼の作法により、厳かにご神前に濃茶と薄茶が奉納されます。また併せて、東京第六西支部の担当主催の奉賛添釜茶会が濃茶席、薄茶席、立礼席の三席とも大宗匠を囲み賑々しく催されます。



尚、当宮付属の大宮幼稚園においても、献茶式に伴い恒例の幼稚園茶席が開かれ、緊張した面持ちながら日頃の練習の成果を披露致します。



杜の話題

平成二十戊子年 新春のご社頭

元旦の午前零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓が新年の訪れを告げると同時に、社殿正面の神門が開き、終日まで続く初詣が始まりました。

太鼓が鳴り終わりますと、観世流能楽師の野村四郎氏に依ります新春を言祝ぐ神能「翁」が朗々と奉奏され、次いで、新春厄除開運大祈禱祭が始まりました。これは、宮司が奉仕する一年の一番最初の特別祈禱で、初詣の期間中執り行われる新春初祈禱の一番初めのご祈禱祭です。



神門前は大晦日の晩から多数の参拝者が新春の開門を待ち、午前零時の開門時より陸続と初詣の列が表参道を埋め尽くし、三ヶ日とも終日まで大変な賑わいとなりました。

どんど焼き神事

小正月の 1 月 15 日にご神前で

「月次祭並び古神矢・古神札等焼納奉告祭」を齋行、次いで社殿前広場の特設齋場で古神矢・古神札等焼納祭（どんど焼き）が盛大に齋行されました。

初詣の参拝者の方々が納められた古い矢や御神札等をうす高く積み上げ、忌火により点火されます。古来より、この炎にあたると無病息災・健康になるとされており、燃え盛るご神火の前で神職等が大祓詞を奏上し、一年間の感謝と除災を祈り上げました。このお焚き上げは、午後 4 時まで続けました。



またこの日は、当宮敬神婦人会（りんどう会）の新春奉仕活動として、「大宮八幡厄除ぜんざい」が振舞われました。このぜんざいは丹波篠山産の大納言小豆を使用し、ご神火を頂いて小餅を焼き上げます。鎌田会長を始め役員等によつて、出来立てのぜんざいが当日の神事にご参拝の皆様へ授与されました。

成人奉告参拜

1 月第 2 土曜日の 12 日は成人の日、早朝より振り袖やスーツ姿の新成人達が、成人の奉告にご神前へと参拝する姿が見られました。



また 16 日には、貴乃花部屋の貴浦太雄吾さんが女将さんの景子夫人と共に参拝され、成人の奉告と今場所の必勝をご祈願されました。

文化財防火デー消防演習

『文化財を火災から守ろう』をスローガンに、恒例の消防演習が文化財防火デーの 1 月 26 日実施されました。この日は、法隆寺金堂壁画の焼失を教訓に昭和 30 年に制定。今年で 54 回を迎えました。当宮消防演習には地元大宮町町会の皆さんも参加、午前



十時、御本殿より出火を想定、消防署への通報連絡や参拝者の方々の避難誘導、そして自衛消防隊の初期消火に続き、杉並消防署・杉並消防団第二分団・自衛消防隊による一斉放水が行われました。

このほか今年初めての試みとして煙体験ハウスによる煙体験訓練や杉並災害時ボランティアの皆様による救護訓練も行われました。



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

式年遷宮奉賛のお願い

20 年毎に社殿を始め装束や調度品に至るまで、伝統や技術を受け継ぎ全てを一新する遷宮により、御神威が新まり、心の甦りを祈り続けて来た伊勢神宮の式年遷宮。来る平成 25 年に第六十二回神宮式年遷宮が齋行されます。これに向け全国各地の神社を中心に奉賛活動が行われています。当宮でも奉賛会を昨年発足し、

役員・総代の皆様へ募金推進委員にご就任頂き、各氏子地区とも今年 6 月末の第一次締切りにむけ、浄財の募財活動が進められております。また兼務神社の堀ノ内熊野神社・尾崎熊野神社・成宗白山神社の氏子地区でもご奉賛の募財活動が行われております。

次世代へこの文化伝統を繋げてゆくためにも、皆様方お一人お一人の真心からのご奉賛をお願い申し上げます。

※ご奉賛の際にご記入頂いております住所・氏名は、奉賛金と共に奉賛会を通じて伊勢神宮へお取り次ぎさせていただきます。

第六十二回神宮式年遷宮に

真心からのご奉賛を致しましょう

新春恒例伊勢参宮旅行

27回目を数える新春恒例の伊勢神宮初詣旅行が去る1月23日より25日の3日間実施され、当宮ご祭神の応神天皇陵等を参拝しました。



一行40人は早朝東京駅を出発。先ず伊勢に入り、外宮次いで内宮を御垣内参拝後、鳥羽に宿泊。翌日は伊賀上野より奈良に入り、法隆寺参詣の後、風の神である龍田大社に正式参拝。最終日は河内源氏で当宮創建の頼義・義家父子等を祀る羽曳野市の壺井宮、八幡大神を祀る壺井八幡宮や応神天皇陵、また道明寺天満宮を参拝し、夕刻無事帰着しました。

古式に基づく追儺神事



2月3日は節分。この日は立春の前日で、四季それぞれの節分がありますが旧暦では立春が年の始まりに当たることから、現在では春の節分

行事が広く行われており、当宮でもこの日午前、節分祭が奉仕されました。祝詞奏上後に続き追儺神事を齋行、除魔の働きがある桃の弓、葦の矢で天・地・人が射られました。続く豆撒き神事はあいくの降雪のため外拝殿にて執り行われましたが、手作りの可愛いお面をかぶって鬼に扮した大宮幼稚園児や参拝者の方々が厄除けの豆を受けておられました。

大宮稲荷初午大祭

稲荷大神様は稲成り、すなわちお米を始めとする五穀豊穰を司る尊い御饗津神として篤く信仰されています。当宮境内の大宮稲荷神社ではこの尊い稲荷大神の大宮稲荷神社で2月初午の日の12日午後、宮司以下祭員により奉仕されました。

氏子崇敬者の皆さんより奉納された真新しい朱色の幟りがはためく中祭典が奉仕され、作物の豊饒はじめ氏子各位の家内安全商売繁盛が祈念されました。また、3月23日（旧暦の2月初午の日より5日目）、当宮姉妹友好神社である宮城県竹駒神社（千葉博男宮司）の例大祭に宮司、高橋・五本木両役員が参列。また、前日の22日の御輿巡行の還御祭にも参列致しました。



第24回梅・木瓜盆栽展



大宮八幡宮梅の会の主催による、第24回「梅・木瓜盆栽展」が2月3日より4月13日まで開催されました。会員の皆様が手塩に掛けた梅の盆栽が所狭しと咲き競い、続いて木瓜の花も満開となり、馥郁たる香りが境内に漂いました。

杉の樹カレッジ開講

シニアの生涯学習と社会参加活動をより活発化することを目的に設立されたNPO法人「杉の樹カレッジ」（大学長：山田宏杉並区長）。この度3月12日に文芸・教養講座として当宮に於いて受講生55名が参加し開講されました。

当日午前10時より当宮清涼殿にて、先ず宮司が当宮の歴史とまつりごとについて講義、引き続き職員による雅楽と神楽舞が解説を交え約1時間間に亘り演奏されました。



半七捕物帖読み語り 由井正雪の絵馬特別公開

当宮所蔵の社宝の絵馬に由井正雪が奉納したと云われている絵馬があります。この絵馬は古色蒼然として殆ど何が描かれているか判りませんが、黒塗地に金泥で枯松に一羽の白い鷹がとまっている構図で、側に慶安二・三年七月十五日と書いてあります。慶安二・三とは慶安四年（六五）のこと



で由井正雪・丸橋忠弥らの謀叛のあった年です。奉納者氏名は後に徳川氏を憚り墨を以て塗り潰したとされています。枯松は松平（徳川）、白鷹は由井正雪を表していると考えられています。享保年間八代將軍吉宗公が当宮へ参詣の折、この絵を見て正雪の筆と見極められたと云います。この絵馬のことが岡本綺堂作の「半七捕物帳」にも出てくるのです。先年、映像作家の岡田喜一郎氏が「半七捕物帳・お江戸歩き」を出版され、その中に半七捕物帳に登場するゆかりの場所として、当宮の「正雪の絵馬」も取材され紹介されております。この事のご縁で当宮清涼殿に於いて岡田喜一郎氏構成に依り「半七捕物帳」読み語りとし

大宮八幡宮 役員・総代一覧

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員 高橋 住雄

五本木 徳治
田木 千城
梅田 清夫

議 長 黒澤 浩一
松島 四郎

監 査 青木 龍雄
笠原 紀章

総 代 大宮地区 五本木 徳治
荒井 昭一
請井 勝雄

小松 又樹
関 春治

毛塚 克彦
青木 龍雄

方南地区 三枝 栄治
田木 千城
黒澤 浩一

大塚 喜一
相川 貞雄
三枝 太一郎

方北地区

高橋 住雄
細野 一善

岩田 圭治
廣田 太良

和田東地区 梅田 清夫
松村 康夫

佐野 晃央
齊藤 洋一

和田西地区 飯高 朝資
浅谷 静男

古谷 孝治
藤枝 宏友

森川 純一
葉梨 俊郎

松ノ木地区

瀬沼 芳蔵
松島 一郎

川上 忠男
関 兼司

本橋 文将
松島 武治

兼務神社総代会長 堀ノ内熊野神社

成宗 正朝
岩田 和保

尾崎 熊野
安藤 雄次

責任役員・総代改選

責任役員・総代の任期満了に伴い、4月1日付で新総代として定員40名(内33名重任7名新任)が選出され、同日午前10時よりの朔旦祭に併せ総代就任奉告祭の後、ご神前で宮司より委嘱状が各総代に伝達されました。又同日午後4時より、改選後初めての新総代会を開催。神社規則第十條により先ず責任役員を選出、次いで議長団・監査が選出され、新議長により平成20年度事業計画並びに収支予算報告の件等の議事が諮られ、満場一致で承認されました。任期は、平成20年4月1日より平成23年3月31日までの3年間です。

りんどう会活動始まる

当宮敬神婦人会(りんどう会)では、去る2月9日に会員65名でご社殿にて奉告参拝のあと、新年会を開き、日本舞踊やフラダンス披露・プレゼント交換など会員の親睦を深め楽しいひとときを過ごしました。また4月13日には、2年目の会員総会を開催し、春秋大祭前の御垣内清掃奉仕、大祓詞書写会への参加、親睦旅行(鎌倉、日帰り)など本年度の事業計画が決まり、活動が始まります。



語り手・演出

家の高瀬精一郎氏により「正雪の絵馬」ほか、午後1時と午後4時の2回公演され延べ150名の聴衆が集いました。

また、この公演に併せて、非公開の社宝「由井正雪の絵馬」を当日に限り、特別展示公開致しました。



大宮八幡桜まつり

4月のお花見シーズン、当宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯は数千本の桜が妍を競い、まさに桜一色となります。今年の桜の開花に合わせ3月29日から4月13日まで桜まつりを開催。この間の土・日には、夜間参拝を実施。ライトアップされた桜に篝火の炎揺らめく幻想的な雰囲気の中で夜桜をお楽しみ戴きました。



また、3月29日、4月5日のそれぞれ午後6時より「夜桜の神遊び」として、雅楽と神楽舞の奉納演奏が行われました。

「国旗のある自由画コンクール」に 当園園児銅賞受賞

(社)国旗協会主催の国旗布告百三十八年記念「国旗のある自由画コンクール」に、今年も年長児が全員応募して、見事にうめ組の音石沙也香さんが、運動会で行った全員リレーを思い浮かべながら「かけっこ」というタイトルで銅賞を受賞。担任の先生やお友達、園児らもこの知らせを聞いてとても喜びました。授与式では沢山の拍手の中、園長より賞状が伝達されました。



戌の日詣りは 子育八幡さままで

ご祈願お受けの方には安産腰帯(岩田帯)を授与しております
子授祈願・初宮詣も随時お受けしております

戌の日早見表

9月	7日(日)	19日(金)	
8月	2日(土)	14日(木)	26日(火)
7月	9日(水)	21日(月)	
6月	3日(火)	15日(日)	27日(金)
5月	10日(土)	22日(木)	

(平成20年5月〜平成20年9月)

大宮八幡の杜 春から夏へ

第28回大宮さつき展

杉並大宮さつきの会主催による「杉並大宮さつき展」が来る5月下旬より6月上旬までの間、当宮神門内北翼廊で催されます。

このさつき展は今年で28回を数えますが、とくに平成12年度より杉並区の後援を頂き、まさに区民のさつき展となっております。例年会員の皆様より丹精込めて育てられたさつきが出品され、五月晴れの中咲き競い、参拝の人々の目を楽しませます。



おほほらいし 大祓詞書写会

当宮教化活動として開設の大宮八幡塾で昨年より初められた大祓詞書写会が、今年も水無月晦日の夏越の大祓神事に併せ



て、6月21日(土)より大祓前日の29日(日)までの9日間開催致します。

この書写会は心静かに真心を込めて書写した大祓詞(約九百文字)を奉納することにより大神様の御神徳を戴こうというものです。浄書された大祓詞は、大祓神事に引き続き行われる奉納奉告祈願祭に神前に納められます。

水無月夏越の大祓

大祓とは、私たちが知らないうちにに犯した罪や過ちなど、心身の穢を祓い清める神事です。古より国家の重儀として行われ、平安初期の法制書『延喜式』にも記されています。年に2度行われ、6月の大祓を「夏越の大祓」、12月の大祓を「年越の大祓」と云います。

当日は、神職が大祓詞を宣読した後、人形に各々の心身の穢を移し、『水無月の夏越の祓ひする人は千歳の命延ぶといふなり』と唱えつつ、茅束ねた茅の輪を左・右・左と3回潜り無病息災を祈ります。



6月1日より社頭にて人形をお頒ちしております。全身を撫で、息を三度吹きかけ、罪穢を移してからお納めになり、6月30日午後4時より夏越の大祓神事に参加下さい。

平安の雅第10回乞巧奠飾り 大宮八幡乞巧潜り神事

乞巧奠は中国の魔除けの風習と、牽牛織女の伝説、それに我が国の棚機つ女の伝説が一体となった平安朝の宮中行事です。

当宮では、7月1日より15日まで清涼殿ロビーにこの乞巧奠飾りを再現。詩歌・管弦・書などの上達を祈って筆硯、雅楽器、五色の糸などが供えられます。また昨年より新しく神門前にて梶の葉や五色の布を潜る「乞巧潜り神事」が始められました。技芸等の上達を祈りお潜り頂きます。また、8日の朝まで神門に大笹竹が立てられ、皆様の願いを込めた短冊をご自由にお付け頂いております。



そして、日曜日の6日・13日の午後5時より「雅楽の夕べ」と題し、乞巧奠飾前で職員奏の奏楽技術の向上を祈り、雅楽と神楽舞の奉奏を致します。さらに、7月7日の夕方に「七夕の神遊び・技芸上達祈願祭」を斎行。乞巧奠行事に因み、御社殿で祭典のあと参列員の皆様方と共に神門前で乞巧潜り神事を行います。

春の大祭後の主な行事

- 御嶽榛名神社例祭 5月16日
- 第28回大宮さつき展 5月下旬～6月上旬
- 大祓詞書写会 6月21日～29日
- 夏越の大祓・茅の輪くぐり 6月30日
- 第10回乞巧奠飾り 7月1日～15日
- 乞巧潜り神事 7月1日～13日
- 雅楽の夕べ 7月6日・13日
- 七夕の神遊び・技芸上達祈願祭 7月7日
- 第8回納涼大宮天神祭り 7月25日
- 書画行燈掲出 7月25日
- 時間はずし日の祭事(和太鼓演奏) 7月25日
- 多摩清水社例祭(水神祭) 8月1日
- 第25回戦歿者慰霊祭 8月15日

「書画行燈」奉納募集

天満宮は、平安時代に活躍された菅原道真公がお祀りされ、全国的に学問の神として信仰され、天神様とも称され親しまれております。

今年も第8回納涼大宮天神祭り

天神祭りを迎えるに当たり「書・画」の作品のご奉納を承っておりますので、皆様奮ってご応募下さい。ご奉納頂きました



書や画は、行燈に貼って灯を点し7月25日の夕刻より大宮天神祭に献灯して、ご社殿前をお飾り致します。水彩画又は習字を当宮指定の用紙に必ず横長に使用して、ご奉納(応募)下さい。(※用紙は社務所にて無料で配付しております。)

また、大宮天神祭りを奉祝し、同日夕刻午後6時半より『**時間をはずした日の祭り**』として、「和太鼓と舞踏のコラボレーション」が奉納演奏されます。これはお祭り本来の、神々と御魂の繋がりが(交信)が出来る様な祭事にして、心の豊かさを取り戻したいとの思いから真心を込めて演奏されるものでもあります。ご自由にご観覧できますので、ご参拝旁々納涼を兼ねてお出掛け下さい。



を込めて演奏されるものでもあります。ご自由にご観覧できますので、ご参拝旁々納涼を兼ねてお出掛け下さい。

多摩清水社例祭(水神祭)

年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっています。8月1日を水の日とされています。この日、朔旦祭に続いて当宮末社の多摩清水社に於いて、生命の源である水の恵みに感謝の祈りを捧げる多摩清水社例祭(水神祭)が斎行されます。

ます。ご自由にご参列下さい。この多摩清水社は、今もご神水が湧き出ており「広き野に靈の清水のあるところ」(青歌)と詠まれています。



第25回戦没者慰霊祭

終戦記念日の8月15日、第25回大宮八幡宮戦没者慰霊祭が斎行されます。

当日は、大宮八幡宮戦没者慰霊祭実行委員会(当宮総代会)の主催により、ご遺族の方々やいろいろな会員の皆様にご参列を頂き、正午に全国戦没者追悼式に合わせ、一分間の黙祷を捧げた後、慰霊祭を斎行。当宮幼稚園の園児等が追悼の舞、次いで箏による「海ゆかば」を奉奏して、当宮及び兼務社氏子地域より出征された戦没者のご英霊たちにご感謝と追悼の誠を捧げ、世界への恒久平和を祈念申し上げます。



大宮八幡花だより

6月中は、梅雨に入り始めた頃、さつき展の終わった展示場に水無月の花、花菖蒲と紫陽花約50鉢が色とりどりに並び、美しい花を咲かせ参拝者の目を楽しませます。また同じ頃、社殿前の菩提樹が陽当たりの良い枝より、徐々に薄山吹色の清楚な花を咲かせ、境内に仄かな香りを漂わせております。また散った花によつて、辺り一面は薄山吹色の絨毯を敷き詰めた様になります。



平成15年に神門長良氏により奉納された大賀蓮も、今では3鉢に増え、例年7月頃神楽殿前にて数日の間だけ花を咲かせ、二千年前を彷彿とさせる麗しい花が早朝にお参りの方々をお迎えします。



平成15年に神門長良氏により奉納された大賀蓮も、今では3鉢に増え、例年7月頃神楽殿前にて数日の間だけ花を咲かせ、二千年前を彷彿とさせる麗しい花が早朝にお参りの方々をお迎えします。

大宮八幡祭り(秋の大祭) 祭典日程のお知らせ

本年の大宮八幡祭り(秋の大祭)は左記の日程により斎行されます。(平成15年より敬老の日が9月第三月曜日に改正された事に伴い、当宮の祭典・行事はその前の土曜・日曜を中心に斎行する)

*神輿神霊人・末社若宮八幡神社並白幡宮例祭は**9月12日(金)**に斎行する

*宵宮祭は**9月13日(土)**に斎行する

*氏子奉幣祭(奉祝当日祭)・神輿合同宮人は**9月14日(日)**に斎行する

*例大祭は**9月15日(祝)**に斎行する

*神輿神霊返は**9月16日(火)**に斎行する

BS・GSSカウト募集

大宮八幡宮が育成母体

ボーイスカウト 杉並13團

ガールスカウト 東京62團

スカウト 募集中

小学一年生から小学高学年まで入団できます。

お問い合わせは、当宮社務所へ



楽しかったよ！おゆうぎ会

2月16日（土）、年長組のおゆうぎ会が行われました。12月の終わりに配役を決め、練習期間は約一ヶ月、保育時間すべてを練習に費やし、この日の為に一生懸命頑張ってきました。子供たちが楽しく、そして充実感・達成感を味わえる様にすべて保育者が指導するのではなく、グループごとにどんな振り付けにしたいか等を話し合いながら練習しました。

当日を迎え、登園してきた子供たちは緊張と嬉しさなどで少々興奮気味。でもこちらの不安をよそにお客様方の前で堂々と踊り演じ

る姿に、今まで懸命に練習してきたよかつたという思いと、子供たち一人一人の成長を感じられ、本当に良いおゆうぎ会になったと思います。

何より子供たちが楽しく舞台上に立つてくれたこと、欠席者無く本番を迎えることが出来て嬉しかったです。最後のフィナーレでは全員の歌声に感動し、涙が溢れました。もうすぐ一年生、この日のことを楽しかった思い出として心に刻み、ずっと忘れずにいてくれることを願っています。

教諭 真藤愛



第58回大宮幼稚園卒園式



平成19年度第58回目の卒園式が3月19日に執り行われ、ご来賓には当高貴任役員の高橋住雄様、田木千城夫様、梅田清様がご臨席されました。

卒園児一一人の子供たちは園長先生から保育証書をいただいで光り輝いていました。この日は神社での卒園奉告祭、清涼殿での卒園式、幼稚園に戻ったの謝恩会があり、とても長い一日でしたが子供たちはよくがんばりました。そして紙ふぶきの中全員送り出したのは午後4時になっていました。

この後、卒園児の担任を囲んでの父母の会主催による趣向を凝らした謝恩会が賑やかに開催されました。

第8回十五夜の神遊び月の音コンサート

今年の仲秋の名月は9月14日ですが例祭当日の15日（月・祝）の夕刻午後6時より第8回「十五夜の神遊び（仲秋祭）」が斎行されます。

境内に並べられた孟宗竹に水を張り浮蠟燭を浮かべた竹燈籠約一一〇〇基に火が灯された後、ご本殿で祭典を斎行。



結婚式挙式者芳名（敬称略）

（平成十九年十二月四日）

平成二十年三月三十日

- | | |
|-----------|-----------|
| 木曾義靖・夏 | 中村直明・令子 |
| 巴義和・浩美 | 毛利彰人・南美子 |
| 山田治生・京子 | ウズゴルデリ・弥生 |
| 町屋雄三・佐知子 | 杉本寛・はるみ |
| アエリデウル・歩美 | 市村健一・敦子 |
| 梅本龍治・きよみ | 亀山圭孝・優 |
| 妻夫木晋也・史奈 | 近藤勝彦・あけみ |
| 篠原正仁・志乃 | 吉田光宏・徳子 |
| 佐野秀輝・美奈子 | 藤村祐輔・佐知枝 |
| 鈴木利昌・律子 | 辻村哲匡・尚子 |
| 伊藤政章・愛 | 谷川慎・深雪 |
| 武田雅之・聡子 | |

引き続き、神楽殿にて雅楽と神楽舞の奉奏。次いで、「月の音コンサート」の奉納演奏が執り行われます。お誘い合せ頂き、多くのご陪観の皆様のご参詣をお待ち致しております。





緑豊かな都心の杜。もり
正統派神前式

♥

初	宮	詣	衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。
宴	集	会	

清涼殿

03 (3312) 7515

初宮詣芳名

(平成 19 年 8 月 3 日 / 平成 20 年 3 月 23 日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

山口市 富田隼丞 会沢美玖 江口知沙
 石松眺太朗 金田一響 大越理暉 織田智秋
 山田晶之介 黒澤彩乃 松清恵奈 鈴木碧
 榊山資大 三橋もえ 岸佑香 野澤娃花
 小池陽太 古川慧土 橋本昂樹 渡辺陽
 池原香子 大塚朱音 野中智彰 榎戸日和
 伊庭大翔 石田悠人 村上優奈 堀川未宙
 榎島拓輝 澤田ころ杉山佳 村上信吾
 内田成美 森田悠斗 矢部貴琉 松崎桃吾
 炭本朱花 竹田路亜 平本里穂 山崎優太
 奥田陽貴 保積真央 大谷柚羽 中川小春
 松野美玖 牧野琥太郎 阿部心星 下平実祈
 吉識大琥 古賀一真 上井開斗 滝澤優晴
 田中絵理 本橋聖英 戸田佳晴 鳥澤彩理
 安室光晴 久世虎治 重枝利咲 堀井大夢
 山本ちはな ハリー有愛板垣蕾実 大久保友也
 蕪城文久 渡邊真央 春山中龍 秋山岳範
 蕪城元久 秋田漣誓 高津怜愛 天野千聡
 内田陽都 山田純二朗 青木にこ 岩崎貴史
 宮原康太 竹内耀太 高木隆成 田中颯介
 中島優月 福島奈津美 橋本光生 濱本幸輝
 桂幸ノ介 石澤晃樹 木佐瑛霞 多田果乃子
 山本亮太郎 長澤愛亜 鳥澤苗時 安藤真由佳
 麻上凜乃 福村直宏 勅使祐翔 酒井美波
 宮原英慈 松本歩大 内藤惺 山本佳苗
 登坂朱音 金原圭吾 前田杏 菅江史郎
 佐久間優大 河合優輝 平島碧 星良八
 松原徹昇 庄司和真 古屋裕一朗 小野ひとみ
 豊田優結 柳下絢音 宮田菜々 堀楓

松村航希 中原純 小西結奈 三嶋斗希
 千葉歩夢 櫻井剛江 石田柊 田上凜
 垣原日葵 山上瑠奈 川上雄大 平岡優希
 高橋遊太 小崎菜々 帆永田怜大 石崎開
 佐藤禅太 片山智 伊藤珠音 田中然
 小村龍聖 岩城字瑠 本田理奈 新村太雅
 玉川季奈 大岩茉莉衣 市川結愛 野村健人
 漆畑柚花 矢島匠人 元繁佑菜 新夏実
 守田和真 菊池菜桜 小島千怜 北村瑠唯
 森彩葉 日比谷純 若月柊磨 小槍山聖
 伊藤瑠音 多勢和馬 手島久留美 石綿凛
 今野陽菜 伊藤大輝 佐藤理央 鈴木愛瑠
 橋爪大地 古屋真央 宮田落 内藤杏
 八木澤ひかり 望月明 喜多尾のえる 栗栖恒樹
 菊池美宇 田中紗紗 塚原晃 新木優麻
 伊藤愛桃 例永嶋莉彩 三上心那 坪井丈
 南立果穂 田原口湊 川上真理子 平田楓
 森田琉菜 佐藤正一朗 川上品太郎 山本直樹
 山田楓太 ベンゴト 籠小沼黎花 秋山美月
 染谷真由 白石雛 高橋明子 深瀬翔大
 竹田幸生 黒神明日香 齊藤響己 神田さとみ
 井上心晴 安藤由真 須長ひまり 堀楓乃音
 渡邊徹也 加藤悠斗 清水彩矢 佐久間結希
 池村南晃 江原花奈 加納若菜 日野羽翔
 土本百合乃 犬飼晴三香 加納史奈 丸石祐大
 池田英龍 新中秀之介 古橋俊英 長瀬和輝
 白木翔也 長井太志 大槻泰地 森永美尋
 曾根日葵 渡部萌音 朝井悳援 大嶋里美
 草野路乃 堀越大輝 今井優衣 稲垣遼一
 小出陸斗 清田琉喜 那須寧 畑山采芽
 平沼政人 中尾匠馬 原田拓実 安藤百優
 橋本奈々 南沙弥 小柳志嬉 倉林琴美
 澤彩乃 野口拓聖 水谷優亜 伊藤智美

浅井日々季 小川楓 野ノノノノ 兼小平愛
 吉野孝太郎 田村真梨 梶原悠之介 越智朱璃
 川村素晴 山本千楠 日川義規 村越道儀
 清水佳穂 長渡海生 鈴木魁流 石田怜
 井戸崎美那 石川音色 久世緋那子 勝川咲栄
 森井菜々子 田村粹人 鐘ヶ江翔 小倉繡花
 南雲天斗 生田凜子 磯村広之 中島結
 高橋李来 河邊琴音 鈴木彩矢 佳中村瑛斗
 古山空 堀内峻瑞 下地朝輝 加藤良太
 和田侑奈 中村涼太郎 荻野頼児 岸田冬和
 石沢佳奈子 宍戸花奏 小林みのり 小幡さち
 平山小粋 長澤信之介 井村透梧 勝山和樹
 本多美葵 一宮晃太 藤田あかり 田中友菜
 佐藤もえ 井田瑞希 番匠柚葉 藤井花
 大野龍人 沖山杏 久住蓮珠 櫻井風詩
 寶戸乃音 湯口康大 三橋華乃 恵利風咲
 二階堂龍 谷本七美 前田泰輔 小山真由
 時田幹太 藤後龍太郎 沼口利子 朝妻陽音
 下村羽依 中野叶夢 宮川竜登 村上緒彩
 吉野美羽 町田紗生 木塚理心 高野優衣
 二階堂舞乃 目黒大地 石井武楓 和田庚美
 齋藤ちひろ 田中萌々 安達せき 倉富柚香
 田村石京 山下大輔 望月ことね 板東由加理
 田邊菜由 大友亜美 鈴木雄大 谷美里
 中里香月 木村光咲 守屋秀平 本橋悠希
 小倉陽菜 有澤歩 南雲玲太 平沼政人
 足立颯花 飯岡結子 黒澤直樹 山本芽依
 杉本愛華 森川ひより 酒井涼太 吉田ひなの
 野澤瞳 鈴木雄翔 石橋龍 宮川莉沙
 中野武蔵 久保田愛海 矢崎桃子 廣方理乃
 村井円香 富澤柚巴 佐賀俊太郎 岩間希華
 西川紗那 大喜多里音 安永愛菜 岡田悠奈
 中野明奈 吉川陽貴 高杉柗太 宮川真帆

相澤維歩 妃久永泰史 新川理紗 千葉広睦
 加藤元之介 水谷友理子 鶴彦人 河西遼
 歌崎水柚 林田知樹 日野心暖 加納悠成
 篠原來花 佐藤菜々 果三星博煌 小松愛伶
 内藤日和 石井千風 土井夕璃 増川実希
 小倉暖也 向山松 水野真子 河口遥
 石川瑚菜 小嶋興季 淺賀菜花 石井敬太
 小笠原椏子 望月あかり 南部芳明 仁木愛人
 岩田優真 加藤美結 小山泰永 富田桃子
 原陽菜 齋藤裕希也 高本恭裕 鈴木凜子
 川口琉生 中村悠人 宮本直佳 篠崎ちさと
 中澤みゆき 前田留衣 矢内こころ 大森朱音
 望月瑚華 寺崎翼 山内智絵 内藤希乃葉
 浅井洵人 南野麗花 茶木望花 土居秀肇
 佐藤波奈 武田萌衣 栗原悠樹 塙康心也
 高野凌丞 村上唯唯 本橋琴菜 新井瑛仁
 高石眺太郎 田野瑛太 岡本悠慎 戸石照入
 茂田泰治 田中暁成 野地駿 前田梗花
 山田千歌 前田順也 岸浪咲桜 星野穂紀
 岡本空晃 秋吉美彩子 山田朋輝 坪木琉香
 折間佳歩 村本陸 小田悠仁 宮脇愛羽
 皆川夢乃 森一紗 一本光 二宮梨緒菜
 森川あさみ 黒澤この 吉田駿斗 原田迅
 添田一斗 羽賀優藍 佐藤愛利 粟飯原凜久
 高橋心優 阪本圭一朗 三浦素愛 伊藤稟
 森水真乃 介多田天音 綿拔翔

初宮詣芳名 お詫びと訂正

先号の社報第80号の初宮詣芳名中、
 山口市子様、石松眺太朗様、山田晶之介様、
 榊山資大様、小池陽太様のお名前の誤記・
 抜け落ちがございました。謹んでお詫び
 申し上げます。訂正し再度掲載させていただきます。

天皇陛下御即位20年奉祝

春の大祭(わかば祭り)5月3日~5日

春の大祭 当日祭(尚武祭)〔5日〕



道楽で参進



海幸山幸の神饌をお供え



宮司、ご神前に祝詞を奏上



園児の神楽「朝日子舞」奉奏



神楽「浦安舞」を奉奏



賑々しく直会

春の大祭 第一日ノ儀 こどもの祭(稚児健康祈願祭)〔3日〕

第30回記念 稚児行列には、こども御神輿の渡御やスカウト・鼓笛隊・役員総代・こども太鼓山車など多くの供奉が



若葉inおのみや〔4日〕



植樹祭 献木の儀〔4日〕



裏千家野点茶会〔5日〕

大 宮 第81号
平成20年 春の大祭号
平成20年5月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



方南エイサー踊り〔5日〕



雅太鼓奉納演奏〔5日〕

境内では、連日神賑行事が奉納されています〔3日~5日〕